表　彰

日本油化学会フェロー

柳　田　晃　良　氏

（佐賀大学招聘教授・名誉教授・西九州大学特任教授）

柳田晃良先生は，九州大学大学院博士課程を修了（農学博士）後，1975年から佐賀大学農学部で研究を始められ1994年教授に就任されました。1980年から2ヵ年米国バージニア大学医学部でResearch Associateをされました。佐賀大学では初代生命機能科学科長，留学生センター長や産学官連携推進機構研究部門長などを併任されました。2002年ペルー共和国立ANCASH大学名誉教授，2012年佐賀大学名誉教授の称号を授与されています。2012年から永原学園西九州大学教授となり健康栄養学部長，国際交流委員長，評議員などを務められました。これまで，台湾Yuanpei University of Medical Technology，台湾行政院農業研究所，中国海洋大学，長崎総合科学大学，琉球大学の客員教授を務められ，現在，西九州大学特任教授及び佐賀大学招聘教授の職にあります。そのほか，JST（日本科学技術振興機構）のサポートを得て2011年創設された佐賀大学・佐賀県ジョイント機能性食品研究所（徐福フロンテイアラボ）運営委員長，2017年からは佐賀県産業イノベーションセンター・佐賀フード＆コスメラボ・ラボ長を併任されています。また，JST評価委員，マレーシアプトラ大学（UPM）大学院指導教授，インド，サウジアラビアなど数カ国の科学アドバイザーや博士論文審査委員も務められています。

ご専門の食品の保健機能に関する研究分野では，先駆的な役割を果たされております。とくに，世界的問題となっているメタボリックシンドローム，脂質代謝異常，肥満，脂肪肝などを予防改善する機能性食品に関する研究と教育に貢献されてきました。機能性脂質・構造脂質（リン脂質，多価不飽和脂肪酸，共役脂肪酸，DAG，MCTなど）の脂質・糖代謝調節への影響や内臓脂肪蓄積，血圧上昇，インスリン抵抗性への影響を研究され，エネルギー代謝調節やアディポサイトカインの重要性も見出されました。最近は，リン脂質分子種及び脂肪酸種のメタボや認知機能への影響を解析されており，EPA/DHA含有リン脂質が他の構造体（TAG型やエステル型）に比べて認知症予防作用が高く，疲労改善や運動能力にも有益であることを明らかにされています。リン脂質脂肪肝，再生肝モデルを用いてホスファチジルコリン生合成における律速酵素CTの膜転移の重要性も明らかにされています。そのほか，含硫イミノ化合物がミクロソームTG転送タンパク質MTP制御を介してリポタンパク質合成・分泌を調節することを世界に先駆けて報告されました。産業イノベーションとの関連では，地域特産物である海苔，アスパラガス，蓮根などが抗老化，抗アレルギー，抗メタボ作用などの保健機能を有することを明らかにされています。これらの成果は健康やメタボ予防の改善のための臨床応用に貢献するものと期待されています。

これらの研究成果は［Dietary fats & risk of common disease］（アメリカ油化学会AOCS Press, USA），「脂質栄養と健康」（建帛社）などの編著書を含め50冊に近い著書，および300編を超えるPeer-reviewed papersとして報告されています。これらの業績に対し，日本栄養食糧学会学会賞（2006年），Best Paper Awards of 2009 from International Lecithin & Phospholipid Society（2009年），Top-Cited Paper Award of Progress in Lipid Research in 2008-2010 Elsevier（2010年），Best Paper Award of BBB（2015年），AOCSからはOutstanding Paper Award（2004年），栄養食糧学会功労賞・佐伯矩賞（2015年），日本脂質栄養学会ランズ賞（2017年），佐賀大学教育功績賞（2008年）など数々の賞を受賞されました。さらに，栄養食糧学会名誉会員（2017年），農芸化学会フェロー（2017年），AOCS名誉会員（2022年）の称号も授与されています。

先生は，学会運営・学術振興におかれましても多大な貢献をされました。日本油化学会では理事や学術専門委員長（2008-09年），AOCS-JOCSジョイントシンポジューム（シンシナティ2004年，ケベック2006年，サンアントニオ2014年）のオーガナイザーを務められました。油化学会教育講演やシンポジストを引き受けられ，インド油化学会大会に派遣されました。当学会の学術専門委員会発足について先生に伺ったところ，島崎弘幸先生ら

のご発案者で発足し，その主旨は，学会員の情報交換の活性化，とりわけ年会等でのデイスカッションを活性化させるべく中堅会員を登用したそうです。加えて，学会の国際的認知を高めるために学会誌への英語での投稿数および引用数を増やす啓蒙活動をすること，とされたそうです。幸い，学会誌はEditorial board memberの努力で文字通りInternationalな学術誌となりました。他の提案としては学術専門委員が率先して学会誌に「up to dateな話題」を提供することとし，1報目は柳田先生が「異所性脂肪」について投稿されたそうです。先生は他学会におかれましてもご活躍されており，日本栄養食糧学会理事・副会長や九州沖縄支部長の他，日本肥満学会，日本動脈硬化学会，日本脂質栄養学会，日本脂質生化学会，日本農芸化学会，AOCSなど多くの学会・研究会で要職を歴任されています。

以上の柳田先生のご功績とご尽力に深く敬意を払い，日本油化学会フェローに推戴しました。

最後に，柳田先生に本学会に期待することを伺ったところ，とくに若い研究者への期待として以下のメッセージを賜りました。早く独自の研究テーマと作業仮説を設定する能力を身につけること。先達ルイ・パスツールは「Serendipity（偶然のラッキー）は心の準備ができているものを好む」と述べている。研究環境は各自異なるだろうが，長期の大きなテーマ（エベレスト山）と短期のテーマ(富士山)を見据えて登り始めるのが良いと思う。1番のテープを切るためには論文化が必須です。研究テーマの継続性やチャレンジする心も重要です。また，世界中には多くの優秀な研究者がいるのでその源泉を知る異文化体験も重要です。外国での学会に参加することや留学することをお勧めします。先生が職を得て最初にやったことは留学希望の書類を出すことだったそうです。先生の研究室運営のキャッチフレーズは「Academic & elegantに」でした。研究人生では「上り坂」,「下り坂」のほか，嬉しい「マサカ」も経験できるので希望や期待を持って研究を楽しんでいただきたい，とメッセージを結ばれました。